

「低学年次のキャリア教育にかかる調査及び教材製本について」

キャリアセンター 西條 秀俊

1. はじめに

新潟大学キャリアセンターによる新たなキャリア意識形成科目の授業が開講されてから約1年半が経過した。センターの目的でもある低学年次からのキャリア教育のあり方を検討し、今後の正課授業を含めた本学でのキャリア教育について各学部との連携を検討していくために、本プロジェクト計画を策定し実施した。

具体的には、センターと各学部との連携したパイロット授業を企画するために他大学のキャリア教育に関する聞き取り調査を実施し、全学での体系的キャリア教育の内容や各学部との連携について調査をおこなった。

そして、調査結果から価値観の多様化する学生への対応として、キャリアセンターだけでなく、各学部の授業等で共有できる教材を作成した。その教材内容は、学生自身が自分の特性や個性に合った充実した学生生活や人生を送るために、低学年次に自らを顧みる自己理解・他者理解・相互理解を深めるためのものであり、教材名を『キャリアを共に考える－自己理解・他者理解－ワークシート』とした。

今後、キャリアセンターと各学部との連携がスムーズに行うことができるように、本プロジェクトの概要を報告する。

2. 低学年次のキャリア教育

2. 1. キャリア意識形成科目

平成18年度からキャリアセンターで新たに「キャリア意識形成科目」を2科目開講した。その内容は、単に進路・就職のことだけでなく、新潟大学の学生が将来「社会や家庭に貢献する人材」になるためのキャリア意識形成科目として、すでに開講されているキャリア形成関連科目と連携を取りながら、できるだけ多くの受講希望の学生にキャリアについて自ら考える機会を提供することを目的としている。

平成18年度第1学期開講した「キャリアを共に考える－自己理解・他者理解」定員30名を2クラスで開講する予定であったが、履修希望学生数が木曜日約130名、金曜日約90名と多かったため、それぞれ50名程度まで枠を広げて受け入れた。また、第2学期に開講している「キャリア意識形成と自己成長」についても180名定員のところ履修希望学生数が4限約300名と多

かったため、各学部のバランスを配慮し、抽選により172名を受け入れ、さらに同授業を5限にクラス増設して開講することにし、約100名の履修希望者から89名を受け入れた。これは、本学工学部のプログラムが平成18年度の現代GP「実践的総合キャリア教育の推進」として採択されたことによるものであり、工学部1年生がキャリアセンター実施の低学年次のキャリア教育授業に参加し、その後に工学部で企業連携に基づく実践的工学キャリア教育を展開する内容である。

平成19年度には、昨年のことを踏まえて、第1学期開講の「キャリアを共に考える－自己理解・他者理解」定員30名を2クラスから4クラスに増やしたが、昨年同様、履修希望者が4クラス合計で120名定員のところ、トータルで400名を超えたので、それぞれ40名まで受け入れた。

他大学では、「キャリア形成科目」と表現しているところが多いが、本学キャリアセンターでは、あえて「キャリア意識形成科目」とした。そこにはこだわりがある。その理由とは、まだ正規雇用者として職業に就いていない大学生にとって、卒業後に働くことの意味、職業観といった職業に対する意識醸成やこれからの大学生活の過ごし方など、将来を見据えた「キャリア意識の形成」が特に重要であると考えているからである。とかく就職活動が始まる3年生の秋以降に将来の進路や就職を考えればよいといった風潮もあるが、自分らしい充実したキャリア形成をするためには、まずは自分らしい充実した大学生活を送ることが大切である。キャリア意識形成を醸成するキャリア教育は、低学年次から自分自身のキャリア形成に興味、関心、目標を持つ手がかりとすることができ、将来の自分らしいキャリア形成に向けて、主体的に何をすればいいのか、自ら考え、行動することでこれからの大学生活の充実を図ることができ、ひいてはキャリア形成に繋がることを期待している。

キャリアセンターでは、平成18年度に正課授業の中から特に将来のキャリア形成に役立つ科目として、「キャリア意識形成科目」を選び、新入生に配布する「履修ガイド」の中に科目リストを掲載した。さらに平成19年度から「分野・水準表示法」の分野の一つとしてコード化し、学生にとって、「キャリア意識形成科目」の位置付けを明確にし、わかりやすい指標とした。



2. 2. 授業担当者としての考察

私が大学に赴任してから3年目を迎えたが、少し感じたことを述べたいと思う。昨年から低学年次（1・2年生）の学生を対象に授業を行ったが、昨年は授業開講初年度ということもあり、受講生100名全員のキャリアカウンセリングを行った。授業課題として、ライフキャリアチャート（自分史年表）を提出させたが、最近問題になっている、いじめや学級崩壊を過去に経験している学生が、そのライフキャリアチャートに記載している学生中だけでも、100人中約20名いた。潜在的にはもっと多い人数になると考えられる。学生一人ひとりと個別にカウンセリングをしていると集団とは違った顔が見えてくる。特にメンタル的な悩みを抱えている学生の割合がかなり多い。授業履修者にかかわらず、日頃カウンセリングをしていると、うつ傾向であったり、すでに心療内科で投薬を受けている学生、自傷歴（主としてリストカット）の経験がある学生など。特に高校から進学してきて、いままでは各学年のクラスで、同じ場所で、同じ仲間と授業を受けることができたが、大学に入ると多くの学部ではクラスという単位が存在せず、授業を受ける教室もバラバラ、受講する学生の顔ぶれも授業の都度異なる、特に1年生は大教室の授業が多いことから、サークル、部活にも入ることができなかった学生にとっては、学校に行っても話す相手がない、友達もできない、その結果、孤独感やストレスが増し、学校へ足が遠のく、休学、退学・・・といった連鎖もあるのではないか。その意味でも、学生支援の一環である低学年次の学生に対するキャリア意識形成支援について、キャリアセンターの果たす役割は大きいと考える。各学部とセンターが連携しながら、個人個人にもスポットをあてていくことが、きめ細かい、学生への修学支援、キャリア意識形成支援につながる。相談に来る学生も、「わかってもらえそうな人にしか話さない」とよく言う。大学における部署にかかわらず、相談、カウンセリングに関わる教員、職員全員がベーシックなカウンセリングスキルを習得する必要がある。

2. 3. 学務情報システムの活用

平成18年度第2学期から本学で新たにスタートした新学務情報システムを活用した授業展開を試みた。

授業後に毎回、その中の「アンケート」機能を使用して、その講義の中で「気づいたこと・感じたこと・考えたこと」を報告させた。また、「レポート」機能を使用した課題レポートとして、「あなたの身近な社会人（ご両親でも結構です。）に具体的な仕事内容や社会におけるその仕事の役割、またその仕事のやりがい、おもしろさ、体験談などを正式にインタビューする。（あらたまって正式に時間を取っていただき、インタビューのお願いをすること。）その方の職業観とそれに対してあなたが感じたことを述べよ。」というレポート提出を課した。さらには、「連絡通知」機能を使用して、翌週の授業準備通知、毎回の授業資料掲載、授業課題の通知等を通知連絡して、周知を図った。

これら新学務情報システムを活用することにより、当日授業欠席者を含む授業履修者全員へ連絡事項等の周知徹底が図れた。学生にとっても、日常的にPCを活用するきっかけになり、定期的な予習、復習が自然と習慣づいていく効果がある。近い将来多くの授業履修学生が取り組む就職活動も、大半の企業がインターネットを活用する募集形態になってきており、これらPC活用スキルは非常に重要であると思う。PC活用スキルはかなり個人差があり、日頃からPC利用を習慣づけることが習熟への一番の近道である。

3. 他大学での取り組み

すでに低学年次からのキャリア教育を体系的に行っている大学に訪問し聞き取り調査等を行った。調査した大学は初年次教育研究開発センターのある関西国際大学及び全学組織としてキャリア教育研修開発センターのある京都産業大学の2校である。その他にも現代的教育ニーズ取り組み支援プログラムのテーマとして、「実践的総合キャリア教育の推進」があげられており、多くの大学で全学での位置づけを明確にした体系的なキャリア教育が取り組まれている。

まず、関西国際大学では初年次教育に力を入れており、そのことがキャリア教育と密接に結びついている。平成18年度から、全学共通で5項目のベンチマーク「自律できる人間になる」、「社会に貢献できる人間になる」、「心豊かな世界市民になる」、「問題解決能力を身につける」、「コミュニケーション能力を身につける」を制定し、これに学科・専攻の専門基礎知識に関する1項目を加えた6項目を大項目としている。さらに、それぞれの大項目について、より具体的な中項目を3～5つ設け、その中で項目毎にチェック・シートを準備している。大学の教育理念である「自律的な人間」、「社会貢献できる人間」、「国際性を身につけた人間」を具体的な能力に表現したもの3項目と、問題解

決能力とコミュニケーション能力について設定した2項目、全学共通の大学4年間の明確な目標とし、大学全体で体系的な指針として具体化している。

一人ひとりの学生が、自分の学習到達度の記録としてのポートフォリオ・ファイル（学習や学生生活の目標と成果のファイル管理）にまとめ、年次毎の成長理解（自己理解）や卒業後の進路決定における目標設定に大きな役割を果たしている。このことは、自分自身の生き方であるキャリアへの意識づけと、大学4年間を通した継続性のある、個性が違う個々の学生に焦点をあてた独自の取り組みである。

平成18年度現代GP選定取組の概要及び選定理由

大学等名	関西国際大学
テーマ名	教育課程の工夫改善を主とする取組
取組名称	初年次教育の総合化と 学士課程教育への転換
取組の概要	本取組は、学士課程教育を修了するための基礎となる、学習技術や動機づけの向上をめざし、初年次教育を充実化するとともに、その教育方法を4年間の教育全体に展開し総合化するものである。本取組は、開学以来の学習支援への取組を基盤とし、平成13年の人間学部の開設と同時に実施を開始した。現在、キャリアプランニングをはじめとする4科目（週6コマ）の他、全員参加のスタディアブロードを中心としたプログラムを実施している。そして、その学習成果を統合するツールとして、学生全員がポートフォリオを作成している。組織的な取組としては、初年次教育研究開発センターが教材・教育手法の開発・共有を促進し、高等教育開発センターがプログラムの評価をするとともに、FDを通して、アクティブ・ラーニング等の教育手法の改善を促進してきた。本取組の結果、学生の学習面や対人関係面などの大学生活への適応力が向上し、成績でも高水準が維持されている。
選定理由	この取組は、初年次教育の実践に関する優れた事例です。平成10年の開学当初から学習支援センターを設置して、学習支援に関する先駆的な努力を続けてきた関西国際大学は、その教育実績をさらに発展させるために、平成16年に高等教育開発センターと初年次教育開発センターを開設しました。この取組の目的は、人間学部の初年次教育充

<p>実だけにとどまらず、上記3つのセンターを連携させることによって、その教育方法を4年間の学士課程全体に展開することにあります。</p> <p>キャリアプランニングなどの関連教育方策を適切に組み合わせながら、ベンチマークの制定、学生メンター制度の充実、ポートフォリオの作成などをとおして学習成果を統合するプログラムは、小規模大学の利点を最大限に活かした緊密な全学的組織体制に支えられており、他の短期大学や大学の規範となり得る完成度の高いものです。スタディアブロードの教育効果がさらに客観的に測定できるようになれば、国際性の涵養を重視する申請大学の一層の発展に直結することが期待されます。</p>
--

次に、全学組織としてキャリア教育研修開発センターのある京都産業大学では、2004年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」（現代GP）日本型コーオプ教育—オン・キャンパス学習と就業体験との融合による「多層サンドイッチ方式」の展開—として、大学として体系的なキャリア教育に取り組んでいる。これは、学内での勉強と実社会での体験を多層的（サンドイッチ方式）に融合されたコーオプ教育で、低学年次からの段階的・系統的なキャリア教育を明確なカリキュラムの位置づけのもとに、4年間の一貫教育として行うものである。京都産業大学のキャリア教育研究開発センターでは、キャリア形成支援教育を社会的自立支援教育として具現化・強化するための研究・開発および教育プログラムの企画・実施・検証を行うために、センター長のもと、研究・開発部門、教育実践部門、運用部門で構成されている。キャリア形成支援教育と大学教育との密接な相互関連性を持たせるために、キャリア形成支援教育プログラムの体系的融合を図り、大学全体で具体的な取り組みが行われている。

平成16年度現代GP選定取組の概要及び選定理由

大学等名	京都産業大学
テーマ名	人材交流による産学連携教育
取組名称	日本型コーオプ教育—オン・キャンパス学習と就業体験との融合による「多層サンドイッチ方式」の展開—
取組の概要	若年者の就業能力の低下に加え、高い失業率や離職率、それに、増加する無業者やフリーターなどが社会問題になって久しい。このような認識にたつて、本学は、現代社会のニーズに適合した想像力ある人材を育成すべく、独自の

	<p>産学連携教育に取り組んでいる。この取組は、既存の単なるインターンシップとは異なり、本学が主体になって編成した正規のカリキュラムに基づいた、大学主導型のインターンシップである。学内での勉学と実社会での体験とをスパイラル的に4回転するところに特徴がある。平成15年度にスタートし、平成18年度に一巡の完成を目指した取組で、今年度は2年目にあたる。その間、教育と運用の両面に対する評価・点検を常に行い、それに基づいた改良を加えながら展開を図るものである。</p>
選定理由	<p>大学が主体になって編成した正規のカリキュラムに基づき、学内での勉学と実社会での体験とを多層的（サンドイッチ方式）に融合され4年間の一貫教育を行う本取組は評価できます。</p> <p>また、明確なカリキュラムの位置づけのもとに、低年次からの段階的・系統的なキャリア教育を一貫して行っており、教職員による実施体制や評価システムが構築されていることも、評価に値します。</p> <p>高年次での学生自身が自分の企画を持って受入先を交渉するシステムは、学生の自主性を高めるのに有効であると考えられますが、各大学への波及効果という点で如何に様々な知見を蓄積していくか注目されます。</p>

本書はこれまで行ったワークを通じ、感じたこと、考えたこと、またその変化がわかるように、一冊にまとめたものです。

■構成

「キャリアを共に考えるWork Sheet」にはワークとワークシートの2部構成になっています。内容は、①自己理解②他者理解③職業理解の3つの要素で構成されています。

□Work

キャリアに関するテーマごとにその内容を簡潔に説明しています。

□Work Sheet

ワークのテーマに対応したワークシートです。実際に書き込みながら取り組んでいきましょう。

■使い方

この本は、キャリア意識形成に必要なと思われる考え方とそのプロセスを集約しました。人の数だけ生き方があるように、キャリアも人の数だけあります。自分を見失わず自分の個性にあった納得いく人生を送るためには、まず自分を知ること、また他人を知ること、お互いを理解することが大切です。ワーク1から始め、ワーク9で終了しますが、一人ひとり、この教材に書き込むことが違ってきます。授業が終了したとき、自分自身のキャリアノートが出来上がるはずですが、思い思いの一冊に仕上げてください。また必要に応じたワークだけを使用することも可能です。それぞれの目的によって使い分けてください。

なお、ワークの中に所々ある「気づき振り返り（コメント）欄」は、他人と意見交換をして気づいたことやフィードバックしてもらったコメントを記入して活用ください。

4. 低学年次キャリア教育の教材

4. 1. 作成した教材の概要

今回、平成18年度授業改善プロジェクトで作成した教材の巻頭と巻末の一部を紹介する。

<本紙から抜粋>

【タイトル:キャリアを共に考える Work Sheet】

■はじめに■

新潟大学キャリアセンターでは2006年度からキャリア意識形成科目として「キャリアを共に考えるー自己理解・他者理解」「キャリア意識形成と自己成長」という2つの科目を開講しました。

この科目は自己、他者、職業を理解し、考えを深めるために、様々なワークを取り入れ、実践してきました。ワークを通じて自分自身に問いかけることやお互いが考えていることを伝え合うことにより、「気づき」を得ることができる内容とし、普段忘れていた自分、新たな自分を発見することが狙いでした。

■ Contents

★キャリアセンター紹介

★エクササイズ

Work 1 自己理解 自分について考えよう

Work Sheet 1 ライフキャリア・チャート

Work 2 自己理解 目標を見つけよう

Work Sheet 2 - 1 大学時代のSMARTな目標設定

Work Sheet 2 - 2 大学生活の振り返り

Work 3 自己理解 自分らしく生きる

Work Sheet 3 - 1 価値観チャート

Work Sheet 3 - 2 自己理解シート

Work 4 他者理解 社会で求められる力

～コミュニケーション力～

Work Sheet 4 印象チェックシート

Work 5 他者理解 社会で求められる力

～チームワーク力とリーダーシップ力～

Work Sheet 5 - 1 砂漠で遭難したときにどうするか？

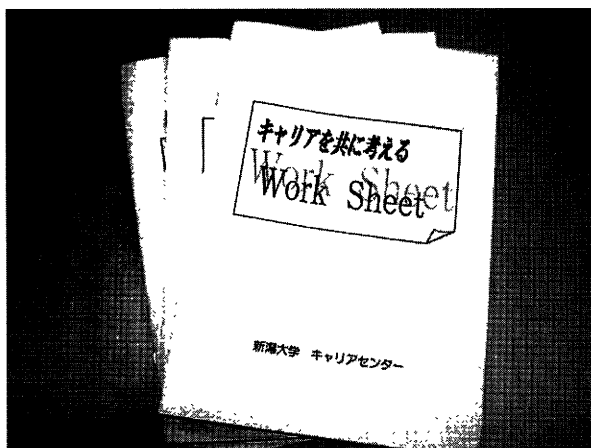
Work Sheet 5 - 2 グループワークシート

- Work 6 職業理解 自分にあった職業を考える
 Work Sheet 6 - 1 キャリアマトリクス診断結果表
 Work Sheet 6 - 2 パーティー・エクササイズ
 Work 7 職業理解 職業・職種・資格について考えよう
 Work Sheet 7 職業興味のワークシート
 Work 8 職業理解 様々な人のキャリアを聞く
 Work Sheet 8 ヒアリングシート
 Work Sheet 9 キャリアビジョン設計シート
 Work 9 まとめ キャリアデザインを考える
 ★監修後記

■監修後記

新潟大学キャリアセンターでは、低学年次学生が将来を見据えて、これからの大学生活を送ることが出来るように、「キャリアを共に考える-Work Sheet」を作成しました。キャリアセンターでの授業やガイダンスのみならず、必要に応じて各学部でも部分的に活用できるようにWork Sheet形式としました。このWork Sheetを活用することにより、学生の皆さんが低学年時から自分自身のキャリア形成に興味、関心、そして目標を持つ手がかりとすることができ、単に進学・就職のことだけではなく、将来の自分らしいキャリア形成に向けて、主体的に何をすればいいのか、自ら考え、行動することでこれからの大学生活の充実を図ることができ、ひいては将来のキャリア形成に繋がることを期待しています。

このWork Sheetは、作成時だけでなく、後になって内容を見返す、修正するなど、より効果的な活用をしていただきたいと願っています。また、平成19年度から本学における新しい学士課程教育への取り組みである「分野・水準表示法」の中の一つの分野として、「キャリア意識形成科目（コード74）」を新設しました。これは学生の皆さんが広い視野を持って自分の可能性を探求し、将来の進路などの具体的な目標を見据えて大学生活を送ることが出来るように、「キャリア意識形成科目」の位置付けをより明確にし、わかりやすい指標としたものですので、学生の皆さんは是非積極的に受講していただきたいと思います。



4. 2. 作成した教材の使用方法

価値観の多様化する学生への対応として、各学部の授業等で共有化でき、Work Sheetの部分的な活用もできるように、今回作成した教材「キャリアを共に考える-Work Sheet」をキャリアセンターHPに掲載することにした。必要とする場合は、使用する部分だけダウンロードをしていただきたい。使用については、できればグループワークで活用いただき、自分ひとりだけでなく他人と意見交換をすることで、新たな気づきを得たり視野を広げたりすることにつながることをご理解いただきたい。

また、作成時だけでなく、年次毎や進路決定時において継続的に使用できるように教材冊子として利用するか、部分的な活用の場合には、クリアファイルに時系列もしくは課題別に綴じて、継続的な利用を促進することで、より一層の効果が出ると考えられる。

なお、教材の使用方法等で不明な点は遠慮なくお問い合わせいただきたい。

5. おわりに～今後の本学におけるキャリア教育

平成19年度から、新たに「キャリア意識形成」を全学的な位置づけとして分野・水準表示法における一分野として、明確にすることができたが、まだまだ全学的における体系的なカリキュラムにはなっておらず、キャリア意識形成支援についてご理解のある先生の個別授業科目に頼っている感は否めない。今後、各学部または学系単位での体系的なカリキュラムを構築する必要がある。そのためには、キャリア意識形成に対する本学の理念・目標を具体的な指標（ベンチマーク）として明確にし、体系的な年次単位での具体的なプランとする必要がある。そのことで4年間の大学生活を充実させることができ、実社会にでるにあたり、大学生活の位置づけが明確になり、学生生活を過ごすモチベーションも高くなる。そのことが、ひいては卒業後の充実したキャリア形成につながり、社会から求められることに少しでも近づくことができるのではないだろうか。同時に大学として地域や社会への責任も果たすことができると考える。

(平成19年10月)